

KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

KATO PRO

TONE

MIR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD



AUTOBACS SUPER GT 2019 series Round.6 AUTOPOLIS GT 300km RACE

開催サーキット：オートポリス
予選：9/7(土) 曇り
決勝：9/8(日) 曇り/雨

第5戦富士の後、鈴鹿10時間への参戦を経て、ふたたびSUPER GTのシリーズ戦へ戻ったModulo Drago CORSE。戦いの舞台は、2018年に初表彰台を獲得した思い出の舞台でもある九州・オートポリスだ。Honda NSX GT3 Evoにとって苦手コースではないが、荒天の天気予報も出ており、気がかりと言えた。

公式練習

9/8(土) 08:50~10:35 (専有 10:15~10:25) 天候：曇り コース：ドライ
ベストタイム：道上龍選手 1'46.721 大津弘樹選手 1'45.922 7番手

これまでのオートポリス大会と比べるとやや早い9月となった2019年のレース。事前に台風の接近が心配されたが、予報よりも早く通過したこともあり、前日こそ強風のなかでの準備となったが、9月7日の予選日は曇天のなかで迎えた。

午前の公式練習では、今回も道上龍からステアリングを握りコースイン。午後の公式予選に向けてタイヤの評価やセットアップを進めていくが、今回チームが本命として持ち込んでいたタイヤが、一発のタイムこそ出るもののいまひとつレースを考えると不安があった。ベストタイムこそ道上が1分46秒721、大津が1分45秒922をマークし7番手と好位置につけたが、予選に向けてチームはタイヤ選択を悩ませることになった。



KENWOOD**ThreeBond****KATO PRO****MIR**

公式予選

9/7(土) 14:30 ~ 15:43 天候:曇り コース:ドライ
ベストタイム: 道上龍選手 1'46.343 (Q1) 18番手

Q1:

午前の公式練習からやや気温は上がったものの、引き続き曇天のなかで迎えた午後2時30分からの公式予選。チームは最終的に、翌日のレースのスタートタイヤとなることを考え、まずはQ1の道上にハードよりのタイヤを託すことになった。このオートポリスは、走り出しこそ非常にダスティで滑りやすいコンディションだが、午後の予選までにコンディションは上がっているだろう……というのがチームの読みだった。

道上是 Modulo KENWOOD NSX GT3 を駆り、Q1 で5周を周回。4周目には1分46秒343というタイムをマークしてみせた。しかし、JAF-GT 規定をはじめライバルチームが速いこのコースで、Q2 進出まであとわずかというところまで迫りながらも、惜しくも18番手でQ2 進出はならず。Modulo Drago CORSE は今季初めてQ2 を戦えないまま予選を終えることになってしまった。

決勝レース

9/8(日) 14:30 ~ 天候:曇り/雨 コース:ドライ/ウエット
ベストタイム: 道上龍選手 (1'48.991) 決勝結果: 11位

9月8日の決勝日は、午前中こそ雲の間に晴れ間も見え、やや汗ばむほどの陽気となっていた。しかし、午後からは雨の予報も出ており、まさに読めない展開。当然、ピット作業は少ない方が取り分は大きい。いつウエットタイヤを履くのがレースのポイントだった。

スタートを務めたのは道上で、序盤からセーフティカーが入る展開のなか上位をうかがいながら、#18 NSX GT3 とバトルを展開していく。そんななか、14周目を終える頃には少しずつ雨が注ぎはじめ、20周目あたりには、1コーナー周辺だけに強い雨が降りはじめた。

ただ、この雨は1コーナー周辺のみで、他はすべてドライ。まだタイヤ交換をするわけにはいかない。道上是慎重に1コーナーへアプローチしながら、#18 NSX GT3 とのバトルを展開していった。

ところが、今度は1コーナー以外にも雨が降りはじめた。道上とピットは無線でいつタイヤを換えるかというタイミングをうかがう。結果的に、32周を終えて道上はピットイン。前にGT500車両が停止していたため、ダイブ(ななめ止め)の形でピットインすることになった。

このタイミングで、Modulo KENWOOD NSX GT3 は道上から大津に交代し、チームはウエットタイヤを選択した。あとから振り返ってみると、この選択と作業は表彰台に繋がってもおかしくない正しいもので5番手に順位を上げていたが、混乱するピットのなかで、ピットアウトした Modulo KENWOOD NSX GT3 のリヤウイングに、タイヤ交換に使うインパクトレンチのホースが引っかかってしまい、レンチが弾かれてしまったのだ。これが後でピット作業違反としてドライブスルーペナルティを受けてしまった。

交代した大津は、難しいコンディションのなかで奮闘。一時は4番手まで順位を上げていたが、ペナルティを消化してからも、それを取り返すべく粘りの戦いを続けた。ただ終盤路面が乾きはじめスリックを履いたライバルたちにかわされ、終わってみれば11位と、わずかにポイント獲得には届かなかった。

表彰台のチャンスもあっただけに悔しい一戦だったが、チームがみせた戦いは、今後につながるはずだ。



KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

KATO PRO

STONE

MIR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD

監督・ドライバーコメント

チョン・ヨンフン監督

予選では、狙っていたタイヤに対する路面の状況が難しく、レースを考え Q1 で道上選手にハードタイヤを履いてもらいましたが、やはりグリップが苦しく、仕方ありませんでした。決勝は天気予報を見ながら進めていきましたが、タイミング良くピットインさせることができました。ただ、ピット作業違反でペナルティを取られてしまったので、チームとしてその点は反省しなければなりません。こういう難しいレースはあまりやりたくありませんが (笑)、戦略としては正しいものが採れたのではないのでしょうか。

道上龍選手

決勝レースでの戦略はうまくいき、もしペナルティがなければ6~7位くらいにはなれていたと思いますが、運もあれば不運もありましたね。18番手からいい追い上げをできていただけに、少し悔しいですね。ポイントを獲りたかったのですが、チームとしては、作戦がうまくいった一方で、ピット作業でペナルティがあったので、その点は反省しなければと思います。特に次のスポーツランド SUGO はピットも狭いですからね。そのあたりをしっかりと次に活かし、次戦はいい結果を残すことができればと思っています。

大津弘樹選手

道上選手が順位を上げてくれて僕に交代しましたが、ピットインのタイミングも良く4番手くらいまで上がることができていました。調子も良かったですし、表彰台もうかがえるチャンスだったのですが、そこでペナルティをうけてしまったので残念です。混乱していた状況でしたし、みんなが最善を尽くしてくれた中なので仕方ありませんが、ふだんならミスはないと思うので悔しいですね。レインコンディションのなかで難しかったのですが、速さはみせられたと思うので、次の SUGO でも優勝目指して頑張ります。



Official Twitter : <https://twitter.com/34ModuloDrago>
Facebook Page : <https://www.facebook.com/DRAGO.CORSE>